

揖斐川町学校教育の在り方審議会
揖斐幼稚園保護者との意見交換会（議事録概要）

1 日 時 令和8年4月17日（金） <開会>14時00分 <閉会>15時00分

2 場 所 揖斐幼稚園 アート&サイエンススタジオ

3 出席者

審議会委員 佐木みどり

事務局 教育長 香田 静夫、事務局長 所 貴宏

保護者・家族 16人

幼稚園教員 3人

4 次 第

(1) あいさつ・趣旨説明・教育長紹介

- ・ 佐木副委員長より、開会の挨拶を行う。

(2) ショートメッセージ

- ・ 教育長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

(3) 意見交流

参加者：以前、個別進度学習と異年齢授業を取り入れている岐阜市の小学校を見学したことがあり、よいものだと感じた。今の授業はそのほとんどが一斉授業だが、そのペースに合う子どもと合わない子どもがいるため、個別進度学習をもっと取り入れるとよいのではないか。個別進度学習を取り入れたことにより、全員が集中して学習することができ、学習効率の向上と学力の上昇につながったという話を聞いている。また、異学年授業を行うことにより、最初は不具合も起きるが、次第に教え合う姿が見られたり通常のクラスに戻った時の雰囲気も温かくなったりしたということだった。大規模の学校では導入は難しいかもしれないが、揖斐川町の規模であれば導入可能だと思われる。移住先を探す人にとっても魅力になると感じるため、ぜひ検討していただきたい。

教育長：今の話は方県小学校のことだと思われる。岐阜市には藍川北学園や藍東学園といった義務教育学校も近年開校されており、異学年交流を取り入れた学び合いが積極的に行われている。近隣では池田町の温知小学校でも今年度より岐阜県の指定校が始まったと聞いている。

幼児教育においてもそうした異年齢による学びを取り入れる動きがあると思われるが、やはり思いやりや自己肯定感につながっていくのではないか。

副委員長：様々な考え方があり、例えばフレネ学校というものは自分で学習のプログラムを作成する個別進度学習や異年齢学習を取り入れている。その中で、次第に子どもたちが自分とは異なる考え方や価値観をもつ人を認められるようになるという面はあると考える。

教育長：通常の授業は教員が立てるカリキュラムに従って学習するが、個別進度学習では自分で計画を立てて学習していくことになる。そのため、学ばなければいけないこと

を学び切れているのかを点検することが必要にはなるが、より学習意欲や達成感を得ることができる形態である。揖斐川町では、夏休みに開催している「地域学び塾」でこの形態を取り入れており、今後も推進していく。

参加者：私の学生時代の授業は、先生に質問をされたら正解を答えなければならないというようなものだった。私の子どもはまだ未就学児なので、今の小学校の授業がどのようなものなのかはわからないが、一つの正しい答えを求めるのではなく、物事の根幹の部分で自分で考える授業になるとよい。そうすれば、子どもが好奇心をもって自主的に学習に取り組めるようになる。また、そうした子どもの好奇心や自主性を育むには、目標や将来の夢があることが必要だと考える。最近、キャリア教育の一環として「こども店長」といった職業体験も行われているが、そうしたものを小学校で実践してもよいのではないか。子どもが目標をもち、楽しく自分の感覚を信じて学べる授業となることを望んでいる。

参加者：私にも小学生以上の子どもがいるが、座学が嫌いで小学校に行きたくないという毎日のように言っており、またさらに帰ってから宿題があるため、やらされているという感覚をもったまま夜遅くまで宿題をやっているという姿があった。ただ、本人は宿題をやらずに学校に行くのは嫌だという思いをもっていたし、子どもは大人が思う以上にしっかりと頑張りたいという気持ちがあるのだろうと感じていた。そうした姿をみていると、今の子どもは目標や将来の夢をもつ余裕が少なくらいノルマが多いのではないか。本人が選択した習い事や部活動等もあるが、そのために時間に追われているように思われるので、今ほどは忙しくない生活になるとよいと思っている。

教育長：今の2つのご意見は、先生が設けた答えや仕組みにとらわれることのない教育がよい、という点で共通していたように思われる。揖斐幼稚園においては、そうした教育を行われているのではないか。

副委員長：揖斐幼稚園では、子どもたちの疑問や、やりたいと思ったことを実現することが大事だと考え、そのための環境づくりを行っている。例えば、園庭では様々な虫や花に触れることができるが、そうした自然環境が疑問や興味をもつきっかけとなる。そこで、揖斐幼稚園ではカリキュラムを作成する際に、そのテーマに沿って子どもたちの興味につながるような多くの種を用意している。その種に子どもたちが興味をもつと、その興味をもった生き物がどこにいるのか知りたくなって世界地図を見始めるなど、子どもの知りたいという思いが広がっていき、その思いが他の子どもたちにも伝染して、さらに新たな興味・関心につながっていく。また、子どもたちの興味により影響を及ぼすために、私たちは子どもの行うことに対して必ず問いかけをするようにしている。今、文部科学省が小学校教育に対して幼児教育に学ぶように言っているのは、そうした子どもたちの興味を促しつつ、それぞれの時期においてどのように必要な成長につなげていくかという取組み方のことであり、先に出たフレネ学校もそうした在り方の一つである。

参加者：揖斐幼稚園では子どもたちが自然豊かな環境で自由に過ごしているが、小学校に入学すると決まったスケジュールどおりに行動しなければならなくなるため、他の幼稚園出身の子どもたちに比べてギャップが大きくつらそうだという話を聞いており、心配している。私の理想としては、子どもたちというのは、まず自分で選んだ内容であれば進んで学ぶことができるため、選択式の授業があるとよいと考える。

また、私の学生時代には、先生を中心に車座になって対話形式で行う授業があり、そこで自分の意見を話す力が付いたように感じているので、そうしたプログラムを小学校でも取り入れてもらえるとよい。

参加者：不登校の子どもが学校に行かない理由として、先生がつまらなさそうにしているからだという話を聞いている。カリキュラムのことものみを検討するのではなく、権威的な態度をとる先生たちに対して、子どもたちとの接し方を教育していただきたい。

(4) おわりのことば

- ・ 副園長より、閉会の挨拶を行う。

以上、閉会